

会 議 録

1 会議名

令和8年度 第1回金谷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○自主的な審議（公開）

・自主的な審議の進め方について

3 開催日時

令和8年4月8日（水） 午後6時30分から午後7時30分まで

4 開催場所

金谷地区公民館 集会室1・2

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委 員：村田会長、阿部副会長、長副会長

大西委員、小竹委員、小林委員、小山委員、白石委員、滝澤委員、
星野委員、益田委員、宮越委員、吉野委員（欠席1人）

・事務局：南部まちづくりセンター 稲田所長、小池副所長、荒川係長

8 発言の内容

【小池副所長】

・13人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務めることを報告

【村田会長】

・会議の開会を宣言

・会議録の確認：大西委員と小竹委員に依頼

— 次第2 自主的な審議 自主的な審議の進め方について —

【村田会長】

次に次第2 自主的な審議 自主的な審議の進め方についてに入る。

事務局に説明を求める。

【小池副所長】

- ・資料1により説明

【村田会長】

ただ今の説明に対し、質疑を求める。金谷カルタについてだが、これは前回の会議の中で、小林委員を中心に金谷観光協会の協力をいただきながら進めていくことになった。その後、何か活動で進んだことがあれば小林委員から説明をいただきたい。

【小林委員】

大きな進捗はない。今、チラシを作る準備を進めているといった状態である。

【村田会長】

それでは資料1についてだが、「(仮称) 金谷山アソビバ計画親子三代で遊びつくせ」というテーマで進めるか、あるいは特にテーマを決めずに金谷山の活性化について審議していくのか、意見をまとめていきたい。吉野委員の意見はどうか。

【吉野委員】

内容はいいと思うが、外向けのピーアールになった場合はこれだと地域を限定しすぎていて、もっと幅広く活性化を図る必要があるのではないかと。上越の人たちだけに今までピーアールをやってきたからこれ以上盛り上がっていないだけで、もっとたくさんの人に来てもらう外向けのキャッチーなテーマがあってもいいと思う。スタートはこれでいいが、イメージ的にはもっと外の人たちを巻き込めるようなテーマがあってもいいのではないかと考えた。

【村田会長】

今の「(仮称) 金谷山アソビバ計画親子三代で遊びつくせ」というのはスタート時点のタイトルだということか。打ち合わせを進める中でもっと広く地域に親しみを

感じてもらえるようなものを検討していったらどうかということか。

【吉野委員】

スタートは、まず地元に着しながら進めていくのが良いと思う。

【村田会長】

仮のテーマということか。宮越委員はどうか。

【宮越委員】

私はこの三つ目の項目、金谷地区振興プランの枠の中で、まずは金谷山に特化した計画を、キャッチーなテーマで取り組んでいくというのがいいと思う。今までの議論でもっと広くという意見もあったが、それは今後の審議の中で範囲を広げるなど、他にも目を向けていくという形でよい。

【村田会長】

益田委員はどうか。

【益田委員】

やはり、金谷地区は金谷山だけではないとしても、最初に皆が分かっている金谷山を中心にするというのは、前期の地域協議会からずっと話に出ていたことなので、この金谷山の計画を一番最初に取り組むのがいいと思う。

【村田会長】

星野委員いかかが。

【星野委員】

この金谷山をある程度中心にして、自然を大事にした取り組みを、若い方の協力も得ながら進めて、お金をかけずに知恵を出して皆さんと行うのが良いのではないか。金谷山はまだ皆さんが知らない場所もたくさんあると思う。

【村田会長】

滝澤委員いかかが。

【滝澤委員】

金谷山を活性化するというテーマはいいと思う。問題は、金谷山に人が来ないことだ。その原因としては、降雪期間が非常に短くなって、私の子どもの頃と比べてもスキーができる期間がほとんどないことだ。今年も大雪といってもスキーができ

る期間はほとんどなかったように思う。しかも、日本でスキーブームが来て外国人が本当にたくさん来ているにもかかわらず、外国人はこの金谷山にはまず来ない。近くに大規模な開発が行われているので、この施設で無理にペアリフトにするのは難しいと思う。そうした原因を考え、それに合った解決策を提案していかなければいけない。解決策はいくつもできないので、一番効果が期待できる取り組みについて審議していければいいと思う。

【村田会長】

タイトルはこの形でよいか。

【滝澤委員】

このままでお願いしたい。

【村田会長】

白石委員いかがか。

【白石委員】

このテーマで良い。早く金谷山を活性化していただきたい。私の住んでいるところの愛の風公園は、たまにしか人が来ないという状況である。滝寺毘沙門堂については、今結構人気が出ていて、この間も大宮の方から来られた方がいた。どうして来たのか聞いたら、ネットで調べたそうだ。また、上越教育大学の関係だと思うが、夏になると外国人があつた辺を散策している。滝寺及び正善寺の方には歴史的なものがたくさんあり見に来られている。

【村田会長】

このテーマで金谷山についての審議を早く進めて欲しいということか。小山委員どうか。

【小山委員】

取り組みやすいテーマで始めた方がいいと思う。前にも話したように、この建物の裏から登っていく散歩道がある。私も時間があつたので上まで行ってきたが、散歩している人も結構いたし、最近整備されてきれいになって、景色が良くなってきた。散歩道を作れば一番身近なところで良い。

【村田会長】

小林委員どうか。

【小林委員】

先ほど事務局から説明があったように、まず観光施設課から話を聞きたい。以前、市と金谷山の関係者を含めた会議が行われたとのことであるが、その後の対応や今の状況がどうなっているのかも含めて知りたい。小山委員の意見もあったように、遊歩道の木を伐採している件なども含め、行政がどのように動いているのかを確認し、情報をいただいた上で、早めにここで議論したい。

【村田会長】

小竹委員どうか。

【小竹委員】

テーマは、ここに書いてあるもので問題ない。進め方としては、月に1回の会議なので、スピード感を持って進めるのは難しいと思う。この地域協議会でできることというと、行政の職員から話を聞いたりして我々の知識をつけていく、勉強としてのインプットの部分が主になると思う。吉野委員が言うように、対外的に動くなら、地域協議会という枠ではなく、別の枠でプロジェクトを結成して進めていく方が有効だ。この地域協議会では、私自身も勉強したいので、とにかくインプットの場にさせてもらえるとありがたい。

【村田会長】

大西委員どうか。

【大西委員】

テーマは、コンセプトが分かりやすい方がいいので、この仮称テーマは比較的コンセプトが分かりやすくなっていると思う。コンセプトを明確にしないといろんな方向に行ってしまうので、そこをもう少しつめた方がよい。ほかは現状を知るために、事務局から提案のあった金谷山の歴史や現状を確認したい。いろいろな取り組みがあって動かれていた団体から、その反省や良かった点、問題点などをお聞きしながら、何ができるかを手がかりに進めていった方がいいと思う。金谷地区振興プランの第1弾ということで、滝寺や正善寺は後々にまたやっていくという点は変わらないと思うので、現状をもっと知るためにいろいろお話を聞いていきたい。

【村田会長】

長副会長はいかがか。

【長副会長】

皆さんから意見が出たように、このテーマ自体はこれから審議が進んでいって、金谷地区で盛り上がっていけば滝寺や正善寺の方にもつながっていくと思うので、ひとまず金谷山からでよいと思う。

【村田会長】

阿部副会長はいかがか。

【阿部副会長】

金谷地区全体をクローズアップするのはなかなか大変だ。そのためにはまず、核となる金谷山、今一番市民から知名度の高い金谷山を起点に、金谷地区全体に振興を進めていくという形がよい。従って、まずは金谷山のハード面の整備やソフト面の企画運営などで整理しながら、そこから波及させていくべきだと考える。先ほど例に挙げた正善寺線の滝寺など歴史的資源がいろいろあるので、そちらの方に展開していくということは考えていく必要がある。その方が手順としてもよいと思うので、できれば金谷山に特化した形で整備し、まず現状がどうなっているのか、今後どうするのか、その辺の行政の考え方をきちんと確認したうえで、我々としての具体的な整備要望も考えていく必要がある。よろしくをお願いしたい。

【村田会長】

それでは総括すると、金谷地区の振興プランを大目標として、まずは金谷を核に、「アソビバ計画親子三代で遊びつくせ」というテーマで一步一步進めていくということではよろしいか。

(異議なし)

それでは、皆さんの意見をお聞きすると、まずは新しい担当部署の観光施設課から、できれば私どもの5月の会議に来ていただけるようお願いしたい。次の会議は5月13日が予定されているがよろしいか。

【小池副所長】

観光施設課には5月13日に来てもらいたいと伝えてあるが、まだ返事は貰って

いない。

【村田会長】

金谷山の歴史や現状など、私たちが知らないことを教えて貰いたい。また、市は以前に金谷山公園のあり方会議を関係者を集めて一度行ったが、そのことについても説明をいただけたと思うので、重ねてお願いしたい。

その他、金谷山に関係する団体はいくつかある。皆様もご承知かと思うが、そうした団体にも、何らかの形で団体の考えや、どのような活動をされているのか意見交換の場を設けるのもあり得ると思うのだが、金谷山に関する任意団体をご存知の方はいらっしゃるか。星野委員の金谷観光協会をトップバッターにお聞かせ願いたい。

【星野委員】

ホテルの会とさくら千本の会がある。

【村田会長】

金谷観光協会のほかにさくら千本の会とホテルの会の名前が出た。あと、他にないか。金谷山の歴史を発信する会というのものもある。

【大西委員】

金谷山の歴史を発信する会は過去の歴史を調べて発信する会である。私たちはこれから活動する側なので少し違う。金谷区で活動している団体がいろいろあるだろう。金谷区で花に関する団体やそういう方々は、どこかを見れば分かるものか。そういう方たちの話を聞いて、何かやっていただけるかもしれない。この金谷区地域協議会は唯一金谷区全体を見られると思うので、皆さんが個々に活動しているものを結びつけられるのではないか。情報を把握することも大変でなければ、手分けして調べたりできればよい。

【小林委員】

次の地域協議会だよりで、住民の皆さんに知らせたら良いと思う。地域協議会では金谷山についてこう考えていますと、関心のある人や団体を募集したらどうか。

【村田会長】

地域協議会だよりは、次はいつ発行するのか。

【小池副所長】

6月か7月というふうに考えている。

【小林委員】

5月の次の会議には団体の方たちはまだ呼ばないのであれば、6月に発行していただければ情報発信できると思う。

【宮越委員】

事務局に聞きたいが、社会教育課あたりで全部網羅していなくても、地域ごとに団体のリストがあるのではないか。今から古い話で20年も前だが講師や団体のリストを持ってたと思う。

【小池副所長】

社会教育課である。金谷地区公民館には公民館主事がいるので、情報を得ることができると思うので聞いてみたい。BMXの関係団体はどこか。

【小竹委員】

BMXは上越バイシクル協会が運営している。私はアクティブスポーツ協会の会長である。アクティブスポーツ協会の事務所は自宅なので金谷区にはなるが、これから金谷山のことをいろいろ進めていこうと思っている。

【村田会長】

今この場で確認できた団体は4つで、それ以上は行政、社会教育課を通じて確認する。

【大西委員】

レルヒの会はどうか。

【村田会長】

レルヒの会もそうである。

【小竹委員】

金谷んちゅという会も活動している。

【星野委員】

金谷山では気球体験がすごい人気がある。

【村田会長】

上越若者みらい会議は吉野委員と関係があるのではないか。

【吉野委員】

上越若者みらい会議の代表とはお互い知り合いである。

【村田会長】

今6つほど団体が挙がったが、6つの団体に声をかけて、この場に来ていただいて、話を伺うことはできるだろうか。それとも個別に意見交換させていただいたほうがよいか。例えば6月に設けるといった形で、提案いただいた6つの団体に声をかけたい。窓口担当者を調べた上で、事務局と正副会長が声がけする方向でよろしいか。BMXの方は小竹委員を通じてでよいか。

【小竹委員】

上越バイシクル協会は副会長に来てもらうのが良いと思う。自分から連絡をとれる。

【星野委員】

森の幼稚園てくてくの園長先生はどうか。

【村田会長】

森の幼稚園てくてくは、結構入園者がいるようだ。

【白石委員】

幼稚園は正善寺の方にある。うちの会館も貸したりしている。

【宮越委員】

昔は園舎を持っていなかったが、今は園舎を持っている。ドイツの保育を勉強して持ち込んだ。

【村田会長】

人気があって、子どもは自然の中で成長していくという。

【大西委員】

高田西小学校は1年生から6年生まで、グループになって活動している。

【村田会長】

上越教育大学附属小学校が金谷山で活動している。では、7つの団体の窓口の方に話をするが、相手方の都合も当然あるし、一步一步確認しながら計画を進めたい

がよろしいか。

(異議なし)

では、次第に沿って進める。先ほど事務局から説明があったが、昨年10月20日にいただいた提案書について、宮越委員から説明を願う。

【宮越委員】

私は退職後、町内会の役員になって3年目になる。それまでの仕事から、町内会の運営に目を向けるようになり、色々と気付くことがたくさん出てきた。少子高齢化を迎えて、地域が弱くなっていると感じるようになった。その中で、町内会では地域活動、祭りなどを自主的に行うことと、住民組織としてゴミの収集、ゴミの搬出といったことや、除雪などをやっていかなければいけない。除雪は市が行うものだが、実施状況や要望の取りまとめは町内会の役割だ。町内会という組織が機能しなくなると、住民一人ひとりの要望が行政に届かなくなり、住民サービスが低下することが危惧される。地域協議会の中にも役員を経験された方がおり、同じように感じられた場面が多いのではないかと思う。

まず一番昔と変わったと感じたのは、町内会活動に対する各世帯の帰属意識の捉え方である。私が子どもの頃、この金谷地区は農村社会で、農業は共同作業がなければ成り立たなかった。その共同作業を前提として、祭や共同作業は当たり前のように行っていたが、今は農業から離れていて田んぼを持っていても、外に委託している状態だ。残っているのは、用水路・排水路の共同作業だけで、かつて農家だった家が、少なくとも土地を残しているために義務的にやっているにすぎない。本当の意味で「自分がやらないと米がとれない、野菜がとれない」という意識は完全になくなっていると思う。

そのことが結局、町内会という組織の活動に参加する意欲、義務感をかなり薄れさせていると強く感じている。具体的には、祭りの参加について、参加する人はいるものの意欲が乏しく、義務的にしか参加しない。参加率は極端に言うと、うちの町内会の割合は20パーセント以下で、賽の神に至っては、今年は天気も良かったので期待したが、100人ちょっとであり、前は400人来ていた。それがいろんな意味で、参加意欲や関わり方が落ちてきていると感じる。

この20年は、まだなんとか役員の意欲と義務感でやっていけると思うが、次の世代の人たちがそれを維持できるかが問題だ。それと、どこの町内でも気になっていると思うが、町内の世帯構成が非常に少数で高齢化している。例えば、ゴミの集積所の掃除、除雪もできなくなっている。各町内で扱いは違うが、当番に除雪をさせるのは各組の責任でやっていただく。その時の組長が非常に判断に苦慮されている。確かに80歳のご夫婦が冬に除雪をできるかという、現実的には難しい。

しかしながら単純に80歳になったら外れるというわけにはいかない。80歳でもできるし、当番を外して欲しくないという人もいる。中には65歳でも勘弁してほしいという人もいる。その中で対応を判断していくのは、町内会ではなく各組の問題として対応してもらっている。これがもうあと10年経つと当番をやめる人が増えるであろう。

テレビなどで最近話題になっているように、町内会からの脱会が具体的に出てきている。特に都市部で、東京のある区では町内会の加入率が30パーセントだそうだ。そういったところになると、町内会館もいない、町内の祭りもないという実態になってきている。一番問題になるのがゴミである。実はその区や市では、町内会でゴミを扱わないとなると、個別に強制的に対応せざるを得ない。ゴミの集積所もないので、それぞれの家庭のどこかに置いてもらうことになるという実態は聞く。中には町内会からは抜けるが、町内の団体は残してゴミ収集にかかる負担金だけいただいているという町内もあるそうだ。それで何とか維持している。これが都市部を中心に進み始めているという実態がある。そうした時に、祭りや行事は、極端に言えば止めざるを得ないし、生活していく上でどうしても必要なゴミの処理と、防災・災害時の対応は別である。

私も行政にいた経験から言うと、災害が起きたときにまず頼るのは町内会だ。町内会にまず安否の確認をしてもらう。避難所までの誘導や防災資機材の配布・受け取りを行政だけで行うことはできない。町内会組織がなければ行政は動けない。行政の職員も数が限られているから、その結果、住民サービスが低下し、困るのは住民そのものである。それを考えると、これから先、町内会組織も何とかしていかなければいけないので、対処していく必要がある。行政もその認識を持つべきであり、

突然ゴミの収集を各世帯が行うこととなると、行政が対応できなくなる。その中で町内会がどういう対応が可能かを、この地域協議会、特に金谷地区での実態を捉えて検討し、各町内会の皆さんの意見が聞ける場を設けられたら意見を伺い、その結果を行政にもフィードバックする。地域協議会に入ってしばらくしてから、そんなことを考え始め、ようやく考えがまとまったので、紙にして役員に提出した内容がこの通りである。今すぐ動けるとは思っていないし、任期の間に動けるとも考えていない。ただ、継続的にこうした意識でフィードバックする活動ができれば、結果的に行政にも届くのではないかと考えている。

私も行政にいたので、行政が突然町内会の状態が変わったときに対応できるかというところできないと思う。例えば、この内容で役所の窓口になるのは地域政策課だが、地域政策課にはゴミの収集についてどうこうできる権限がない。これは生活環境課の担当になる。防災については危機管理課や消防局の担当で、それぞれが権限と能力を持っているところだから、組織にはしっかりした考えと組織対応の方針を持ってもらわないと対応はできないはずである。一朝一夕で変わるものではなく、1年程度で対応できるとは思えない。将来の高齢化社会を考えると、今から問題を提起し、問題意識を持っていただくことが必要だ。今後、この取り扱いについては、会長から皆さんの意見を聞いて取りまとめていただきたい。

【村田会長】

金谷地区はご承知のとおり、28の町内会がある。まさに今、宮越委員がおっしゃった課題を共有しており、特に町内会長等の三役は強く認識していると私も確信している。ただ、本日この後、意見を求める時間が取れないので、宮越委員も言われたように、次回以降にこの取り組み等について話し合いたいと思う。今日は宮越委員の説明のみとさせていただきます。よろしいか。

(異議なし)

上越市は多分800からの町内会がある。みんな同じ思い、同じ認識をしているところなので、大きな課題だというふうになるかと思う。次回以降、よろしく願いしたい。

— 次第3 その他 —

【村田会長】

次第3 その他に入る。

事務局に説明を求める。

【小池副所長】

地域協議会だよりの編集委員について、今年度の編集委員は順番で滝澤委員、星野委員、益田委員になる。よろしくお願ひしたい。なお、地域協議会だよりは年3回発行の予定で、今年度から色上質での作成はやめて再生紙になる。デジタル化の流れで班回覧の検討がされているが、会長、副会長との話し合いの中で引き続き金谷区では全戸配布とさせていただきます。

- ・第2回協議会：令和8年5月13日（水）午後6時30分から 金谷地区公民館
- ・第3回協議会：令和8年6月10日（水）午後6時30分から 金谷地区公民館

【村田会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。